

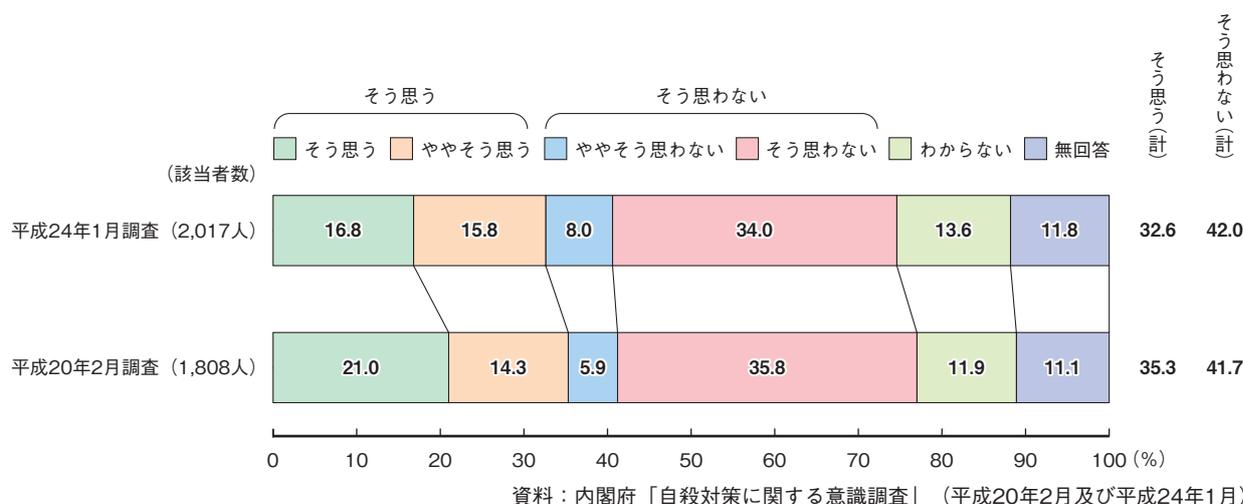
カ 自殺総合対策大綱策定以降の状況の変化 〈自殺は追い込まれた末の死〉

我が国では、自殺を「自ら選んだ死」、「意思的な死」というように、個人の自由な意思や選択の結果として捉え、場合によっては、「生死は最終的には本人の判断に任せるべきである」とする考え方が根強くある。このような国民の意識については、歴史的に責任を取るための自殺や自己犠牲のための自殺が行われてきたという事実を指摘するものや、日本人は自殺に対して寛容な文化を有するという指摘もある。しかしながら、現在の我が国における自殺の背景には、ほとんどの場合、経済・生活問題、健康問題、家庭問題など様々な要因とその人の性格傾向、家族の状況、死生観などが複雑に関係している。その

ため、自殺総合対策大綱では、多くの自殺は、個人の自由な意思や選択の結果ではなく、様々な悩みにより心理的に「追い込まれた末の死」と規定し、正しい知識の普及や偏見をなくしていく取組を掲げている。

この点に関する国民の意識の変化を見ると、内閣府「自殺対策に関する意識調査」（以下「意識調査」という。）によれば、自殺についての意見として「生死は最終的には本人の判断に任せるべきである」について、「そう思う」と答えた人の割合は平成20年2月意識調査では35.3%だったものが、24年1月意識調査では32.6%へとわずかながら減少している（第2-4図）。他方で「そう思わない」と答えた人の割合は41.7%から42.0%へとわずかながら増加している。

第2-4図 自殺についての意見「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」



〈自殺は防ぐことができる〉

世界保健機関は、2003年の世界自殺予防デーに際して発したメッセージの中で「自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である。」としている。自殺総合対策大綱も、人々を自殺に追い込んでいる様々な要因に対し、そのような要因を生み出している制度や慣行そのものを見直すこと、また、様々な要因で追い込まれている人に対し、相談・支援体制の整備・充実という社会的な取組に

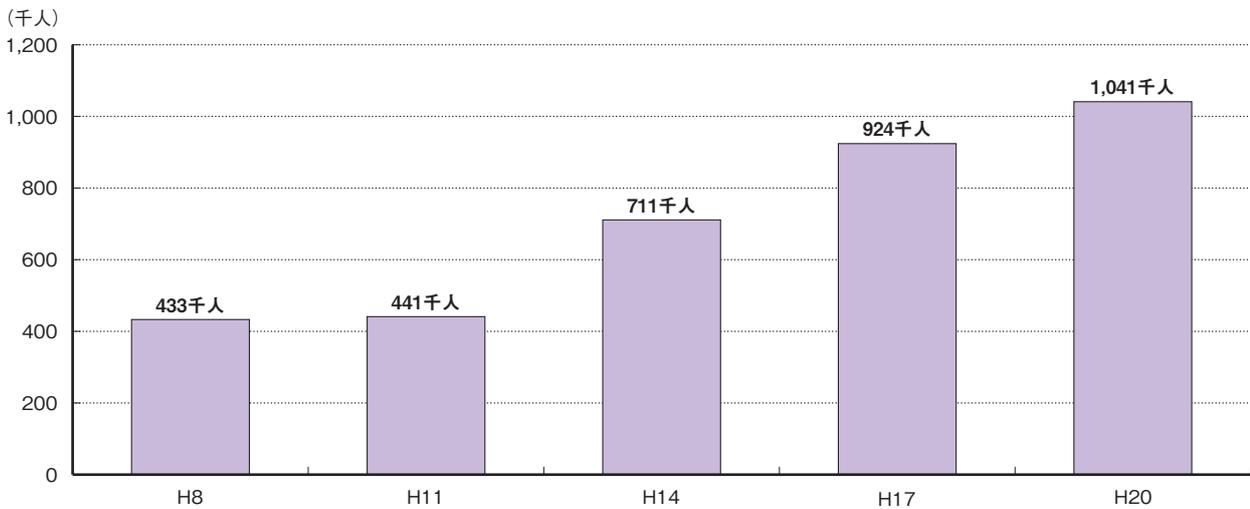
より自殺を防ぐことが可能であるとの基本認識を掲げている。

また、多くの自殺者はうつ病等の精神疾患に罹患しているなど精神医療上の問題を抱えていると言われているが、例えば厚生労働省の患者調査によれば、うつ病等の患者は増加傾向にあるものの（第2-5図）、うつ病の発生頻度（1年間有病率4%～11%）からすると、医療機関を受診しているものはごくわずかと推測される。

この点に関する国民の意識について、内閣府が平成19年5月に実施した「こころの健康相談（自殺対策）に関する世論調査」（以下「19年5月世論調査」という。）の結果と24年1月意識調査の結果を見ると、調査方法の違いに留意する必要があるものの変化が表れている（第2-6図）。家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき精神科の病院

へ相談することを勧めるか聞いたところ、19年5月世論調査では、89.2%だったものが、24年1月意識調査では72.7%へと大きく減少している。また、自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき精神科の病院へ相談しに行こうと思うか聞いたところ、「思う」と答えた人の割合は56.5%から51.2%へとやはり減少している。

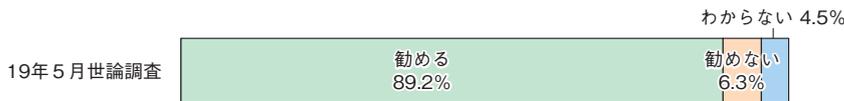
第2-5図 気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の総患者数の推移



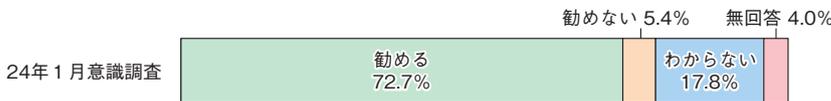
資料：厚生労働省「患者調査」

第2-6図 精神科の病院を受診することについて

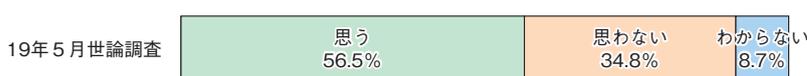
家族等の身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、精神科の病院へ相談に行くよう勧めますか（該当者数=1,728人）



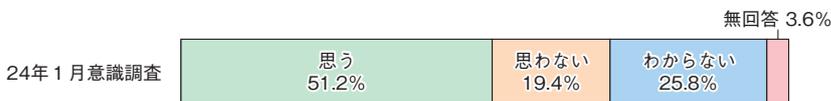
家族等の身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、精神科の病院へ相談することを勧めますか（該当者数=2,017人）



自らのうつ病のサインに気づいたとき、精神科の病院へ相談に行こうと思いますか（該当者数=1,728人）



自らのうつ病のサインに気づいたとき、精神科の病院へ相談しに行こうと思いますか（該当者数=2,017人）



資料：内閣府「こころの健康（自殺対策）に関する世論調査」（平成19年5月）及び内閣府「自殺対策に関する意識調査」（平成24年1月）

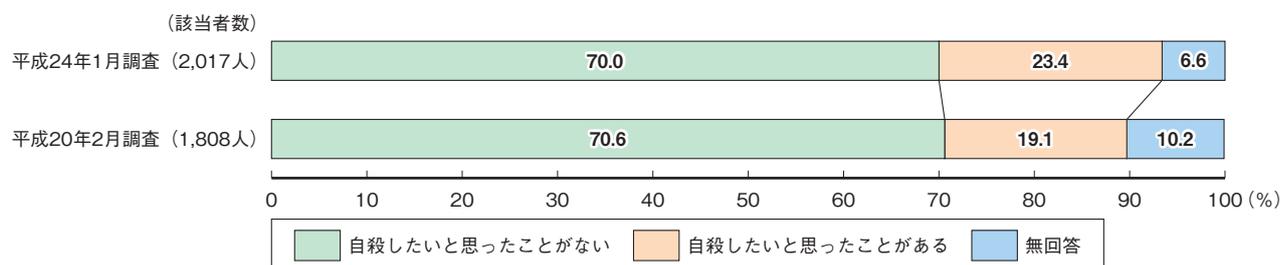
〈自殺を考えている人は悩みを抱えながらもサインを発している〉

わが国では、近年、精神科に通院することについての抵抗感は減りつつあるが、未だ精神疾患や精神科医療に対する誤解や偏見が根強く残っており、特に自殺者が多い傾向にある中高年男性は、相談することに対する抵抗感が強く、問題を深刻化しがちと言われている。

意識調査において、今まで本気で自殺したいと思ったことがあるか聞いたところ、「自殺したいと思ったことがある」と答えた人の割合は平成20年2月意識調査では19.1%だったものが、24年1月意識調査では23.4%へと増加している（第2-7図）。また、そのときどのように乗り越えたか聞いたところ、家

族、友人、職場の同僚など身近な人や医師、カウンセラー、弁護士、司法書士など専門家などに相談した人の割合は、20年2月意識調査では32.7%だったものが、24年1月意識調査では49.6%へと大きく増加している（第2-8図）。しかしながら、24年1月意識調査で、悩みを抱えたときやストレスを感じたときに誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるか聞いたところ、特に自殺者が多い傾向にある中高年男性では「そう思う」と答えた人の割合が5割を超えており、悩みを一人で抱え込みがち傾向が確認できる（第2-9図）。なお、「そう思う」と答えた人の割合は70歳以上の女性でも5割を超えている。

第2-7図 自殺を考えた経験



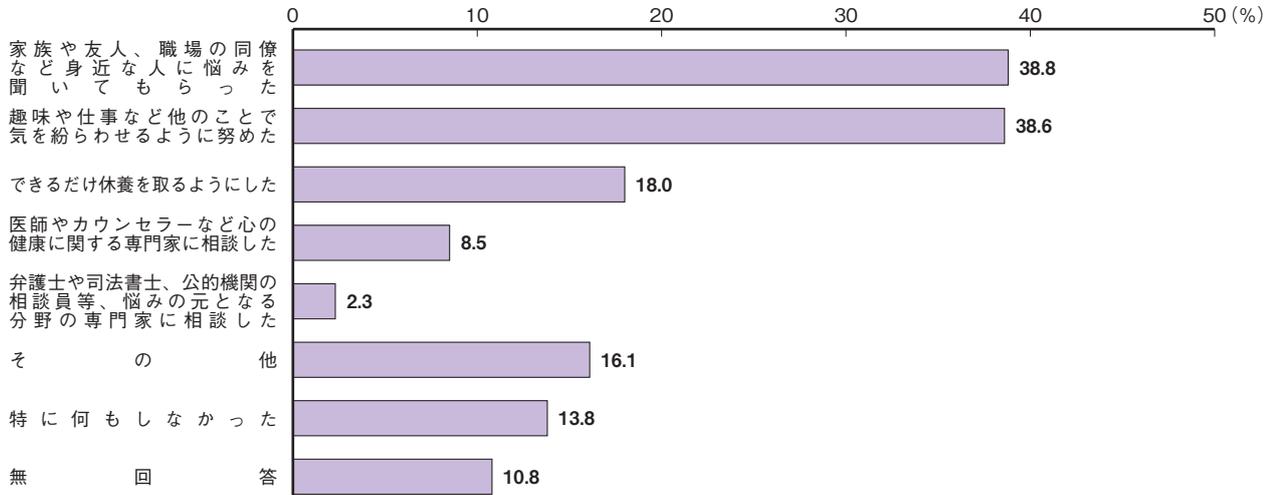
資料：内閣府「自殺対策に関する意識調査」（平成20年2月及び平成24年1月）

第2-8図 自殺を考えたとき、誰に相談したか・どのように乗り越えたか

自殺を考えたとき、どのようにして乗り越えたか

(平成24年1月)

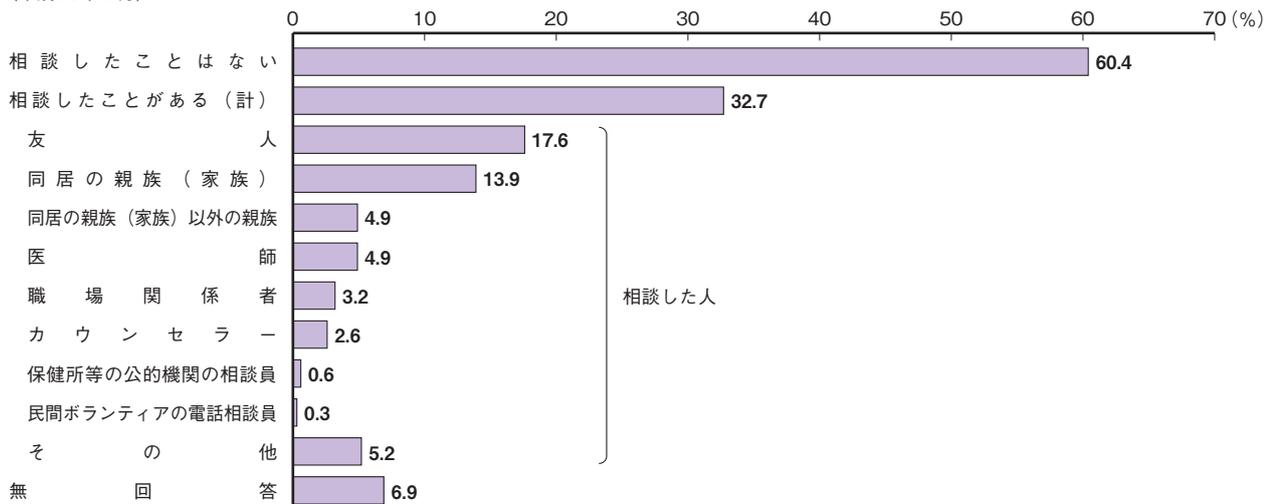
(該当者数=472人、回答率(複数)=146.8%)



自殺を考えたとき、誰かに相談したことがあるか

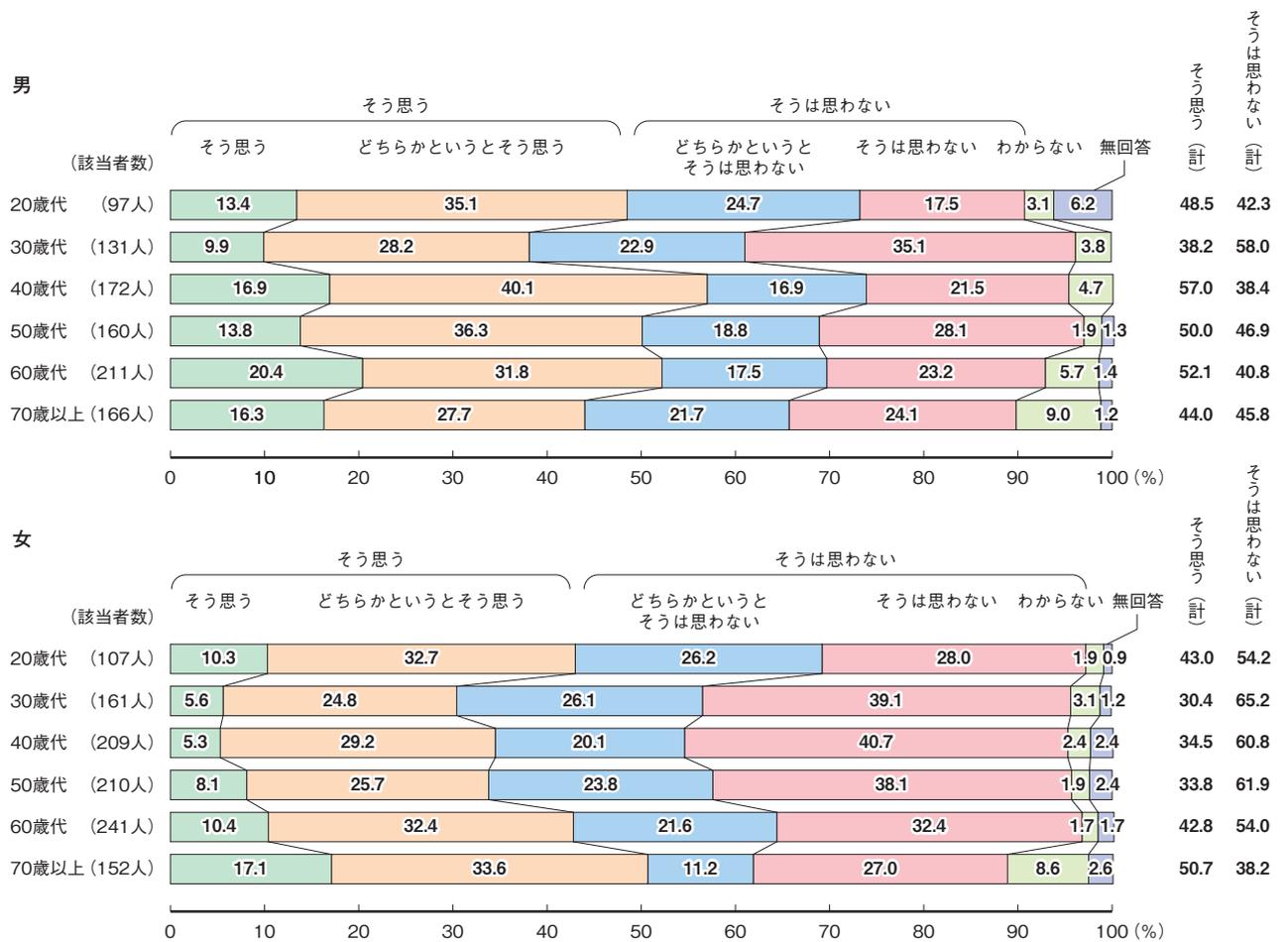
(平成20年2月)

(該当者数=346人、回答率(複数)=120.5%)



資料：内閣府「自殺対策に関する意識調査」(平成20年2月及び平成24年1月)

第2-9図 相談や助けを求めることへのためらい



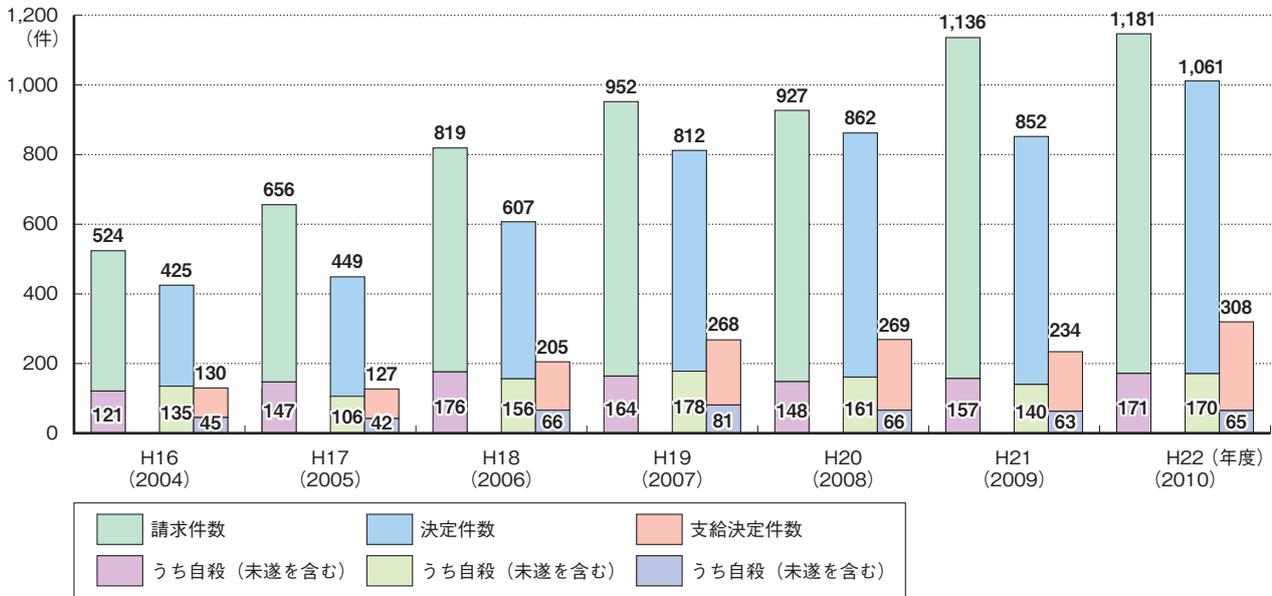
資料：内閣府「自殺対策に関する意識調査」（平成24年1月）

〈社会的な要因に対する働きかけ〉

社会的な要因による精神障害等のうち業務により心理的負荷を原因として発症したものは労災補償の対象となっている。精神障害等

の労災請求、決定件数を見ると、近年、請求件数は増加傾向にあり、平成18年度以降、毎年200件以上の支給決定件数がある（第2-10図）。

第2-10図 精神障害等に係る労災請求・決定件数の推移

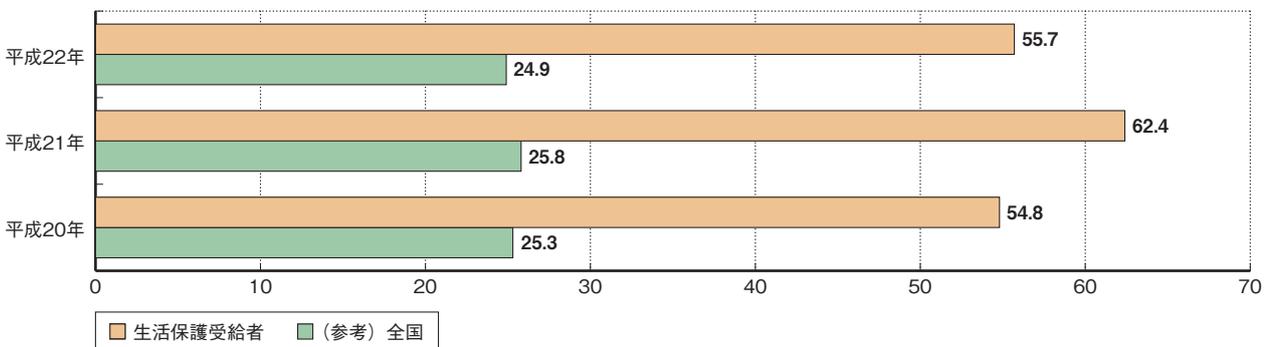


資料：厚生労働省「脳・心臓疾患及び精神障害等に係る労災補償状況」

生活保護受給者の自殺死亡率は全国の自殺死亡率よりも高くなっている（第2-11図）。

生活保護受給者では精神疾患（うつ病、統合失調症、依存症）を有する者の割合も全国平均（2.5%）よりも高くなっている（15.0%）。

第2-11図 生活保護受給者の自殺死亡率



資料：厚生労働省「生活保護受給者の自殺者数について」

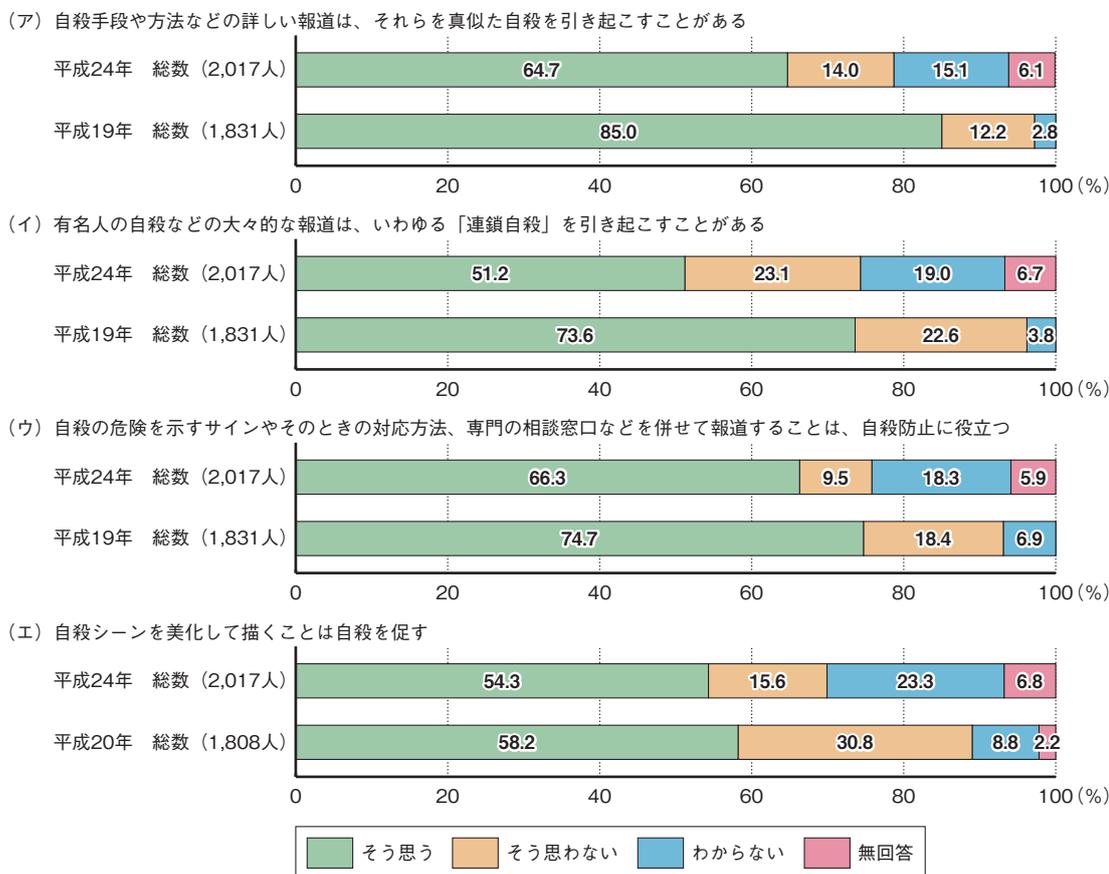
〈マスメディアの自主的な取組への期待〉

マスメディアによる自殺報道は、事実関係に併せて自殺の危険を示すサインやそれに気づいたときの対応方法、様々な相談機関の窓口等自殺予防に有用な情報を提供することにより大きな効果が得られる。一方、自殺手段の詳細な情報、短期集中的な報道は他の自殺を誘発する危険性がある。また、平成20年に発生した硫化水素ガスを用いた自殺については、一時期詳細な報道が行われたこともあって自殺者数が急増した。

この点に関する国民の意識の変化を見ると、新聞やテレビなどマスコミの自殺報道及びテレビドラマや映画での自殺のシーンの描写について、自殺手段や方法などの詳しい報道・描写はそれらを真似た自殺を引き起こすことがあると思うか聞いたところ、「そう思う」と答えた人の割合は平成19年3月の内閣

府「自殺予防に関する意識調査」では85.0%だったものが、24年1月意識調査では64.7%へと、また、有名人の自殺などの大々的な報道はいわゆる「連鎖自殺」を引き起こすことがあると思うか聞いたところ、「そう思う」と答えた人の割合は73.6%が51.2%へと、自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは自殺防止に役立つと思うか聞いたところ、「そう思う」と答えた人の割合は74.7%が66.3%へと、自殺シーンを美化して描くことは自殺を促すと思うか聞いたところ、「そう思う」と答えた人の割合は平成20年2月意識調査では58.2%だったものが54.3%へと、それぞれ減少しているもののいずれも5割を超える高い割合となっている(第2-12図)。

第2-12図 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道及びテレビドラマや映画での自殺シーンの描写についての国民意識



資料：内閣府「自殺予防に関する意識調査」(平成19年3月)及び「自殺対策に関する意識調査」(平成20年2月及び平成24年1月)